

トウキビ掛け

梶原宏之（阿蘇たにびと博物館学芸員）

阿蘇ではトウモロコシのことを“トウキビ”といいます。夏の阿蘇といえば道端で手を振るキビ売りたちを思い出す人もいられるかもしれません。トウキビは阿蘇の風景にとっても合いますが、いま道端で売られているのは特に戦後米



国から来た甘いスイートコーンです。阿蘇に元々あった在来種はデッチといい、大デッチや小デッチなどありましたが、これらの風味を懐かしがる人も少なくありません。白飯に混ぜて炊いたり、牛馬の飼料とするため軒先に吊



畑の脇に干されたトウキビ（南阿蘇村）

るされるのも秋から冬の阿蘇の風物詩です。阿蘇へは18世紀頃に、高森町草部地区の人が馬見原地区（現山都町）を訪れた商人から原種を手に入れたとする話もあり、歴史的な関わりは大変古いと思われ

あか牛のオーナー募集

あなたも阿蘇草原再生に参加しませんか

「あか牛オーナー制度」は、阿蘇で伝統的に飼育されてきた「あか牛」を増やし、消費拡大を図ることによって、広大な草原を放牧利用する阿蘇ならではの畜産業の振興と草原の維持・再生に貢献することを目指しています。制度が創設して5年、これまでに64名のオーナーが誕生しています。

あか牛のオーナーになると…

- オーナーからの出資金（1口30万円）は、グリーンストックから契約農家に繁殖用母牛の導入資金として無利子で貸与。農家は生まれた子牛の売却代金で5年以内に返却します。
- オーナーには5年間定期的に、あか牛肉や阿蘇の特産品など30万円分が届けられます。
- 名前書き交流会（年2回）では、牛に名前を付け、牧場でふれあうことができます。あわせて地元農家の方々と交流します。
- 「オーナー通信」により、畜産農家やオーナーの紹介、牛の情報などをお知らせします。

お申し込み・お問合せ先

財団法人阿蘇グリーンストック
熊本県阿蘇市の石 1537-1
TEL:0967-35-1110



Congratulations

産山中学校（熊本県）3年の中村那津三さん
「少年の主張全国大会」で
グランプリ受賞



第30回少年の主張

全国大会（H20.11.9）で、

中村那津三さんは「なぜ、母牛『あやか』は死んだのか」と題して、放牧牛が草原に捨てられたビニール袋を食べて亡くなった出来事を通して、ゴミ問題が生き物の命にも関係することを訴え、内閣総理大臣賞を受賞しました。

小学校の頃はお祖父さんと原野に行き、牛の世話をしていた中村さん。「阿蘇の草原は季節ごとに雰囲気の違い、特に野焼きのあと草が青々としてくる頃が大好き。そんな草原がずっと見られるように、放牧する牛も跡継ぎも増えてほしい。私たち地域の人が阿蘇の素晴らしさを分かって、ずっと住みたいという気持ちを持ってればと思います。」と草原への想いを語ってくれました。

小学校の頃はお祖父さんと原野に行き、牛の世話をしていた中村さん。「阿蘇の草原は季節ごとに雰囲気の違い、特に野焼きのあと草が青々としてくる頃が大好き。そんな草原がずっと見られるように、放牧する牛も跡継ぎも増えてほしい。私たち地域の人が阿蘇の素晴らしさを分かって、ずっと住みたいという気持ちを持ってればと思います。」と草原への想いを語ってくれました。

阿蘇草原再生協議会より

ロゴマーク募集に900点以上ものご応募ありがとうございました。

阿蘇草原再生の活動を広く一般にアピールするためロゴマークを公募したところ、900点を超える作品が集まりました。皆様のご協力ありがとうございました。

阿蘇と阿蘇草原再生の情報はこちらで

<http://www.aso-sougen.com/>

ニュースレターに関するお問い合わせはこちらへ



環境省九州地方環境事務所
阿蘇自然環境事務所

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川 1180
TEL:0967-34-0254 FAX:0967-34-2082
e-mail: NCO-ASO@env.go.jp
<http://kyushu.env.go.jp/>